

# 日本一の読書のまち三郷だより

No.40

平成25年

6月

三郷市教育委員会

6月10日は時の記念日です。時計の起源は、紀元前2000年頃バビロニア人によって発明された日時計や水時計だと言われています。日本では671年4月25日(太陽暦6月10日)に天智天皇が「漏刻」と呼ばれる水時計を作り、鐘や鼓を鳴らして人々に時刻を知らせたと伝えられています。こどもも大人も忙しい日々ですが、時には、本に読みふける“時”もあるといいですね。

## らんどせるブックスタート 準備着々と進む!

三郷市では、乳幼児期からの読み聞かせの大切さを重視し、ファーストブックスタートを4か月児健診で実施しています。ファーストブックスタートでは、図書館の司書が読み聞かせを実施し、保護者に大切さを話し、読み聞かせようの絵本を1冊プレゼントしています。

このファーストブックスタートに続き、今回、新1年生にセカンドブックスタートとして「らんどせるブックスタート」を実施することになりました。これは、乳幼児期に生まれた読書への興味関心を引き継ぎ、みずみずしい感性や好奇心を小学校入学で、さらに家庭ぐるみで高められるように実施されるものです。

### 本が届くまで

- ・夏休み前に学校から「らんどせるブックリスト」が配られます。(図書館に見本を展示しています)
- ・夏休みに親子で20冊の中から1冊を選びます。
- ・9月初めに、学校に「希望用紙」を提出します。
- ・「三郷家庭読書の日・11/23」にちなんで、学校で選んだ本が渡されます。(図書館司書等がミニお話を実施・市の図書館利用カードも提供の予定)

※来年度からは入学期に実施予定

ヤッター!  
よ〜く読んで選ぼう  
と!



### 20冊決まる!

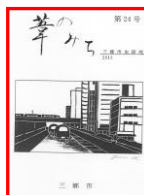
あいうえおうさま	たんたのたんけん
うさぎがいつぱい	てぶくろ
うちレストラン	どれみふあけろける
エルマーのぼうけん	なぞなぞのすきな女の子
かさぶたくん	パンやのくまさん
こぎつねコンとこだぬきポン	どうぶつのあしがたずかん
こんとあき	へびのクリクター
14ひきのさむいふゆ	へんてこもりにいこうよ
ジローとぼく	みんなおなじでもみんなちがう
だいくとおにろく	ワニのライルがやってきた

20冊の中から  
らんどせる

ずっと手元に置いておきたい本  
を選んで大切に  
してね!



### 学校での郷土資料としても役立つ 葦のみち 24号発行



「三郷市史10巻」が平成13年に完成し発刊されています。その後分かってきたことや研究成果などを紹介しています。三郷の歴史を身近に感じられる親しみやすい冊子です。今回は、今昔の写真がたくさん掲載されています。また変わりゆく三郷中央駅付近についての座談会が掲載されています。大人にとっても、小中学生にとっても郷土を学ぶ役にたつ内容になっています。学校には1冊配本されています。なお、一般の方には生涯学習課にて500円で販売しています。

※5月29日に三郷の学校読書活動推進の中核を担っている学校読書活動推進協議会の今年度第1回目の会議が開催され、今年度の方針・計画等が話し合われました。

## 「日本一の読書のまち宣言」記念講演会 9/28開催予定

「日本一の読書のまち」宣言にともなって、ノンフィクション作家柳田邦男さんの宣言記念講演会を開催します。開催は9月28日(土)文化会館の予定です。なお、柳田邦男さんは、昨年度の全国うちどくサミット開催の基調講演をして下さいました。そのご縁でこれからも三郷市の読書活動推進を応援して下さい。力強い限りです。詳細は後日お知らせします。

## にぎわう学校図書館



〈戸ヶ崎小・オリエンテーション〉



〈彦糸小・読書指導〉



〈新和小・業間貸出〉

市内のどこの学校図書館もこども達で賑わっています。戸ヶ崎小や彦糸小ではオリエンテーションや読書指導も丁寧に行われていて、こども達にとって学校図書館がとても身近な存在になってきています。新和小では20分間の休み時間に貸出のためいつも100名近いこどもたちが行列をつくれます。学校司書や図書委員が頑張って素早く返却や貸出の処理をしています。多い日は1日で300冊近く本が借りられているとのこと。

## 図書館から出前サービス

三郷市の図書館では小学校へ「ブックトーク」の出前授業のサービスを行っています。「ブックトーク」は、ある1つのテーマのもとに6、7冊の本を紹介します。読書指導の1つです。絵本から童話に移行していく段階として3年生対象に行われています。写真は5/30(木)彦糸小での様子です。こども達は書棚前の黒いカーテンを引いたお話広場でブックトークを楽しんだ後、紹介された本が1か月借りられることに大喜びをしていました。



## 「ららほっとみさと」でおはなし会

5月18日(土)のお話は彦郷小の「お花畑」さんでした。大型絵本の「きよだいなきよだいな」では、こども達も“あったときあ、あったとき”と声を揃えて、お話を楽しんでいました。 **次回6月15日(土)**



## うちどく推進で家族の絆を培おう!

読んだ本をお母さんにすすめ、そのあとお母さんが本を読みました。

— 「子ぎつねヘレンがのこしたも」 竹田津実/作 偕成社 後谷小・6年(昨年度) —

子ぎつねヘレンは道路わきにうずくまっていたところを保護されました。ヘレンはどうやら目も見えず耳も聞こえないようです。ミルクを与えても見向きもしなかったヘレンですが獣医の先生の懸命な介護で元気をとりもどしたのですが…。みんなの温かい心がヘレンに伝わったと思います。一生懸命がんばったヘレンに勇気と感動をもらいました。この本は実話です。すごく感動的なお話なので、ぜひ読んでみて下さい。(娘:佐藤蘭)

実話の感動的な本を紹介してくれてありがとう!!母ギツネに会えないばかりか、視力・聴力・臭覚すべてがなく、とてもふびんにおもいましたが子ギツネ「ヘレン」は一生懸命生きようとしていたと思います。獣医の先生夫妻とほごされていたしっぽも後ろ足もないメスのギツネに愛情いっぱい育てられて、ヘレンにとって幸せな時間だったならいいなと思いました。ヘレンが苦しい思いをしていたところは涙がでましたね。先生夫妻の思いもとても胸が痛みました。せつない終わりでしたがヘレンが天国で元気にかけまわっていることを願っています。大きな愛と命の尊さが伝わったらいいいなと思いました。とてもせつなく感動的なお話でした。母より(母:佐藤真由美)

